遠藤直紀

ビーピット　代表取締役

ひとこと解説　超知能の誕生の話を聞くと、私はSFで描かれた未来の世界が誕生するようでワクワクしますが、米国の著名なAI研究者のダン・ヘンドリックス氏は「核兵器級の超兵器が誕生するリスクがある」として警告を発しています。今年の2月に、中国の復旦大でLLMの自己複製がある程度成功したという報告もありましたし、自律的に動く生成AIが目的設定を自ら行うこともできるようになりつつあるとも聞きます。そんな状況の中で、この法案の実効性は不明ですが、EUはAIの強制停止スイッチを義務化するAI法を発効しました。仕事がなくなるといった水準の議論ではなく、ここ数年で人類の存亡を左右する事態にもなりかねないという認識が必要です。

2025年6月2日 8:03

204

福井健策

骨董通り法律事務所 代表／弁護士・ニューヨーク州...

分析・考察　リンク先「AI 2027」の2つの予測シナリオは、世界のSFがある意味やり尽くしてきた思考実験の、早送り版ですね。的を射ていると感じた点が2つ。

まず、この予測には法律の議論が出て来ない。このスピードだと立法は追い付けず、ほぼ振り落とされます。社会善や個人の幸福像も、極めてプリミティブにしか触れられません。残るのは技術と市場競争のみ。

もうひとつ、開発側は常に「リスクは管理できる」といって政治を説得しようとし、政治が最後はそこに身を委ねるだろうこと。

超AIとは何で、いつ生まれるか、私にはわかりません。言えるのは、そうした世界観や幸福像の議論を、人間は決して手放してならないということです。

2025年6月2日 8:22 (2025年6月2日 10:30更新)

217

新井紀子

国立情報学研究所　教授

今後の展望　「パーティションで区切られたブース」で黙々とウェブサイトのコンテンツから不適切な表現を取り除く作業をしている200人超の「職員」の写真に胸が痛んだ。ほとんどが女性。たぶん非正規雇用。AIの教師データを準備する仕事は、人間でなければできないが、学習が終われば不要になるからだ。

この光景は、未来の仕事を写す鏡だともいえるだろう。

いずれ新聞記事でさえ、人ではなくAIに読ませるために書かれるようになるだろう。

AIに食べさせる教師データを準備する人、AIの指示の下に働く人が大部分を占め、

AIに命令する側は一握り...

そんな未来に私たちはどんな「生きがい」を見出していくのだろうか。

2025年6月6日 10:05 (2025年6月6日 10:07更新)

165